

免震建築物の耐風設計指針 正誤表

訂正箇所	誤	正																														
P.72 表 6	<p style="text-align: center;">表 6 等価荷重振幅による簡易評価</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">等価荷重振幅 (対応実験)</th> <th style="width: 55%;">繰返し変形性状</th> <th style="width: 30%;">ランク</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.33τ_y 未満 (0.2±0.05MPa, 0.2±0.1 MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.66τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度はほぼ一定。 残留変形は非常に小さい。</td> <td>ランク a または b</td> </tr> <tr> <td>0.9τ_y 未満 (0.2±0.2MPa, 0.3±0.075MPa, 0.3±0.15MPa, 0.4±0.1MPa, 0.4±0.2MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は 10°C 程度。</td> <td>ランク b</td> </tr> <tr> <td>0.9τ_y 以上 (0.3±0.3MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8τ_y 以上に 対応。 繰返し変形による加振振幅は 2 時間で初期の 1.35 倍程度増加 する。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は 15°C 程度。</td> <td>ランク c</td> </tr> <tr> <td>1.0τ_d 以上 (0.4±0.4MPa)</td> <td>これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による加振振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。</td> <td>ランク外</td> </tr> </tbody> </table> <p>※α: 風荷重動的成分を等価な一定振幅の正弦波に置換する際の換算係数を表す。</p>	等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形性状	ランク	0.33 τ_y 未満 (0.2±0.05MPa, 0.2±0.1 MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.66 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度はほぼ一定。 残留変形は非常に小さい。	ランク a または b	0.9 τ_y 未満 (0.2±0.2MPa, 0.3±0.075MPa, 0.3±0.15MPa, 0.4±0.1MPa, 0.4±0.2MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は 10°C 程度。	ランク b	0.9 τ_y 以上 (0.3±0.3MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_y 以上に 対応。 繰返し変形による加振振幅は 2 時間で初期の 1.35 倍程度増加 する。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は 15°C 程度。	ランク c	1.0 τ_d 以上 (0.4±0.4MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による加振振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外	<p>表 6 を以下のように修正。</p> <p style="text-align: center;">表 6 等価荷重振幅による簡易評価 (B1 試験体)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">等価荷重振幅 (対応実験)</th> <th style="width: 55%;">繰返し変形性状</th> <th style="width: 30%;">相当ランク</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.4τ_d 未満(0.36τ_y 未満) (0.2±0.05MPa, 0.2±0.1 MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8τ_d 未満 (0.72τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの温度上昇はほとんどない。 残留変形は小さく、考慮する必要は低い。</td> <td>ランク a または b</td> </tr> <tr> <td>0.9τ_d 未満(0.81τ_y 未満) (0.2±0.2MPa, 0.3±0.15MPa, 0.4±0.2MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8τ_d 未満 (1.62τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形により積層ゴムの温度上昇が生じ始めるが、ばね 性能変化への影響はほとんどない。 残留変形を考慮する必要がある。</td> <td>ランク b</td> </tr> <tr> <td>1.2τ_d 未満(1.08τ_y 未満) (0.3±0.3MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 2.4τ_d 未満 (2.16τ_y 未満)に対応。 繰返し変形により振幅増加の傾向を示す。 積層ゴムの温度上昇による影響が生じ、ばね性能の低下に伴 う振幅増加の可能性がある。 残留変形を考慮する必要がある。</td> <td>ランク c</td> </tr> <tr> <td>1.2τ_d 以上(1.08τ_y 以上) (0.4±0.4MPa)</td> <td>これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。</td> <td>ランク外</td> </tr> </tbody> </table> <p>※α: 風荷重動的成分を等価な一定振幅の正弦波に置換する際の換算係数を表す。 ※表中において τ_d は切片応力度(せん断ひずみ 100%時)を、τ_y は降伏応力度(せん断ひずみ 100%時)を表す。</p> <p>【主な修正箇所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標とする特性値については τ_y: 降伏応力度に加えて、τ_d: 切片応力度を追加。 等価荷重振幅の係数を訂正、ランク c の等価荷重振幅を「未満」の表記に訂正。 対応実験を整理。 繰返し変形性状の表現を見直し、他の高減衰積層ゴムの表現と統一。 注記に τ_y および τ_d の説明を追加。 表題に適用する試験体呼称を追記。 	等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形性状	相当ランク	0.4 τ_d 未満(0.36 τ_y 未満) (0.2±0.05MPa, 0.2±0.1 MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8 τ_d 未満 (0.72 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの温度上昇はほとんどない。 残留変形は小さく、考慮する必要は低い。	ランク a または b	0.9 τ_d 未満(0.81 τ_y 未満) (0.2±0.2MPa, 0.3±0.15MPa, 0.4±0.2MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_d 未満 (1.62 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形により積層ゴムの温度上昇が生じ始めるが、ばね 性能変化への影響はほとんどない。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク b	1.2 τ_d 未満(1.08 τ_y 未満) (0.3±0.3MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 2.4 τ_d 未満 (2.16 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形により振幅増加の傾向を示す。 積層ゴムの温度上昇による影響が生じ、ばね性能の低下に伴 う振幅増加の可能性がある。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク c	1.2 τ_d 以上(1.08 τ_y 以上) (0.4±0.4MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外
等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形性状	ランク																														
0.33 τ_y 未満 (0.2±0.05MPa, 0.2±0.1 MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.66 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度はほぼ一定。 残留変形は非常に小さい。	ランク a または b																														
0.9 τ_y 未満 (0.2±0.2MPa, 0.3±0.075MPa, 0.3±0.15MPa, 0.4±0.1MPa, 0.4±0.2MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は 10°C 程度。	ランク b																														
0.9 τ_y 以上 (0.3±0.3MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_y 以上に 対応。 繰返し変形による加振振幅は 2 時間で初期の 1.35 倍程度増加 する。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は 15°C 程度。	ランク c																														
1.0 τ_d 以上 (0.4±0.4MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による加振振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外																														
等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形性状	相当ランク																														
0.4 τ_d 未満(0.36 τ_y 未満) (0.2±0.05MPa, 0.2±0.1 MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8 τ_d 未満 (0.72 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの温度上昇はほとんどない。 残留変形は小さく、考慮する必要は低い。	ランク a または b																														
0.9 τ_d 未満(0.81 τ_y 未満) (0.2±0.2MPa, 0.3±0.15MPa, 0.4±0.2MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_d 未満 (1.62 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形により積層ゴムの温度上昇が生じ始めるが、ばね 性能変化への影響はほとんどない。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク b																														
1.2 τ_d 未満(1.08 τ_y 未満) (0.3±0.3MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 2.4 τ_d 未満 (2.16 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形により振幅増加の傾向を示す。 積層ゴムの温度上昇による影響が生じ、ばね性能の低下に伴 う振幅増加の可能性がある。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク c																														
1.2 τ_d 以上(1.08 τ_y 以上) (0.4±0.4MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外																														

免震建築物の耐風設計指針 正誤表

訂正箇所	誤	正																														
P.78表13	<p style="text-align: center;">表13 等価荷重振幅による簡易評価(B2試験体)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">等価荷重振幅 (対応実験)</th> <th style="width: 50%;">繰返し変形性状</th> <th style="width: 30%;">ランク</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.33τ_y 未満 (0.1±0.025MPa, 0.1±0.05MPa, 0.15±0.0375MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の変化は小さい。 残留変形は非常に小さい。</td> <td>ランク a または b</td> </tr> <tr> <td>0.8τ_y 未満 (0.1±0.1MPa, 0.15±0.075MPa, 0.2±0.05MPa, 0.2±0.1MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は 7℃以下。</td> <td>ランク b</td> </tr> <tr> <td>0.8τ_y 以上 (0.15±0.15MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.6τ_y 以上に 対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の変化は小さい。</td> <td>ランク c</td> </tr> <tr> <td>1.0τ_y 以上 (0.2±0.2MPa)</td> <td>これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による加振振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。</td> <td>ランク外</td> </tr> </tbody> </table>	等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形性状	ランク	0.33 τ_y 未満 (0.1±0.025MPa, 0.1±0.05MPa, 0.15±0.0375MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の変化は小さい。 残留変形は非常に小さい。	ランク a または b	0.8 τ_y 未満 (0.1±0.1MPa, 0.15±0.075MPa, 0.2±0.05MPa, 0.2±0.1MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は 7℃以下。	ランク b	0.8 τ_y 以上 (0.15±0.15MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.6 τ_y 以上に 対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の変化は小さい。	ランク c	1.0 τ_y 以上 (0.2±0.2MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による加振振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外	<p>表13を以下のように修正。</p> <p style="text-align: center;">表13 等価荷重振幅による簡易評価(B2試験体)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">等価荷重振幅 (対応実験)</th> <th style="width: 50%;">繰返し変形性状</th> <th style="width: 30%;">相当ランク</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.4τ_d 未満(0.36τ_y 未満) (0.1±0.025MPa, 0.1±0.05MPa, 0.15±0.0375MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8τ_d 未満 (0.72τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの温度上昇はほとんどない。 残留変形は小さく、考慮する必要は低い。</td> <td>ランク a または b</td> </tr> <tr> <td>0.9τ_d 未満(0.81τ_y 未満) (0.1±0.1MPa, 0.2±0.1MPa, 0.15±0.075MPa, 0.15±0.15MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8τ_d 未満 (1.62τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形により積層ゴムの温度上昇が生じ始めるが、ばね 性能変化への影響はほとんどない。 残留変形を考慮する必要がある。</td> <td>ランク b</td> </tr> <tr> <td>1.2τ_d 未満(1.08τ_y 未満)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 2.4τ_d 未満 (2.16τ_y 未満)に対応。 繰返し変形により振幅増加の可能性はある。 積層ゴムの温度上昇による影響が生じ、ばね性能の低下に伴 う振幅増加の可能性はある。 残留変形を考慮する必要がある。</td> <td>ランク c</td> </tr> <tr> <td>1.2τ_d 以上(1.08τ_y 以上) (0.2±0.2MPa)</td> <td>これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。</td> <td>ランク外</td> </tr> </tbody> </table> <p>※α:風荷重動的成分を等価な一定振幅の正弦波に置換する際の換算係数を表す。 ※表中において τ_d は切片応力度(せん断ひずみ 100%時)を、τ_y は降伏応力度(せん断ひずみ 100%時)を表す。</p> <p>【主な修正箇所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標とする特性値については τ_y:降伏応力度に加えて、τ_d:切片応力度を追加。 等価荷重振幅の係数を訂正、ランク c の等価荷重振幅を「未満」の表記に訂正。 対応実験を整理。 繰返し変形性状の表現を見直し、他の高減衰積層ゴムの表現と統一。 注記に α の説明、τ_y および τ_d の説明を追加。 	等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形性状	相当ランク	0.4 τ_d 未満(0.36 τ_y 未満) (0.1±0.025MPa, 0.1±0.05MPa, 0.15±0.0375MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8 τ_d 未満 (0.72 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの温度上昇はほとんどない。 残留変形は小さく、考慮する必要は低い。	ランク a または b	0.9 τ_d 未満(0.81 τ_y 未満) (0.1±0.1MPa, 0.2±0.1MPa, 0.15±0.075MPa, 0.15±0.15MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_d 未満 (1.62 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形により積層ゴムの温度上昇が生じ始めるが、ばね 性能変化への影響はほとんどない。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク b	1.2 τ_d 未満(1.08 τ_y 未満)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 2.4 τ_d 未満 (2.16 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形により振幅増加の可能性はある。 積層ゴムの温度上昇による影響が生じ、ばね性能の低下に伴 う振幅増加の可能性はある。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク c	1.2 τ_d 以上(1.08 τ_y 以上) (0.2±0.2MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外
等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形性状	ランク																														
0.33 τ_y 未満 (0.1±0.025MPa, 0.1±0.05MPa, 0.15±0.0375MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の変化は小さい。 残留変形は非常に小さい。	ランク a または b																														
0.8 τ_y 未満 (0.1±0.1MPa, 0.15±0.075MPa, 0.2±0.05MPa, 0.2±0.1MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は 7℃以下。	ランク b																														
0.8 τ_y 以上 (0.15±0.15MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.6 τ_y 以上に 対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の変化は小さい。	ランク c																														
1.0 τ_y 以上 (0.2±0.2MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による加振振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外																														
等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形性状	相当ランク																														
0.4 τ_d 未満(0.36 τ_y 未満) (0.1±0.025MPa, 0.1±0.05MPa, 0.15±0.0375MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8 τ_d 未満 (0.72 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの温度上昇はほとんどない。 残留変形は小さく、考慮する必要は低い。	ランク a または b																														
0.9 τ_d 未満(0.81 τ_y 未満) (0.1±0.1MPa, 0.2±0.1MPa, 0.15±0.075MPa, 0.15±0.15MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_d 未満 (1.62 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形により積層ゴムの温度上昇が生じ始めるが、ばね 性能変化への影響はほとんどない。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク b																														
1.2 τ_d 未満(1.08 τ_y 未満)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 2.4 τ_d 未満 (2.16 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形により振幅増加の可能性はある。 積層ゴムの温度上昇による影響が生じ、ばね性能の低下に伴 う振幅増加の可能性はある。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク c																														
1.2 τ_d 以上(1.08 τ_y 以上) (0.2±0.2MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外																														

免震建築物の耐風設計指針 正誤表

訂正箇所	誤	正																														
P.79 表 14	<p style="text-align: center;">表 14 等価荷重振幅による簡易評価(B3 試験体)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">等価荷重振幅 (対応実験)</th> <th style="width: 50%;">繰返し変形状</th> <th style="width: 30%;">ランク</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.33τ_y未満 (0.04±0.02 MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの変化は小さい。</td> <td>ランク a または b</td> </tr> <tr> <td>0.8τ_y 未満 (0.04±0.04, 0.08±0.04MPa 0.12±0.06MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は4℃以下。</td> <td>ランク b</td> </tr> <tr> <td>0.8τ_y 以上 (0.08±0.08MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.6τ_y 以上に 対応。 繰返し変形による加振振幅の増加は1.06 倍程度。 繰返し変形による積層ゴム温度の変化は6℃以下。</td> <td>ランク c</td> </tr> <tr> <td>1.1τ_y 以上 (0.12±0.12MPa)</td> <td>これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による加振振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。</td> <td>ランク外</td> </tr> </tbody> </table>	等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形状	ランク	0.33 τ_y 未満 (0.04±0.02 MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの変化は小さい。	ランク a または b	0.8 τ_y 未満 (0.04±0.04, 0.08±0.04MPa 0.12±0.06MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は4℃以下。	ランク b	0.8 τ_y 以上 (0.08±0.08MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.6 τ_y 以上に 対応。 繰返し変形による加振振幅の増加は1.06 倍程度。 繰返し変形による積層ゴム温度の変化は6℃以下。	ランク c	1.1 τ_y 以上 (0.12±0.12MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による加振振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外	<p>表 14 を以下のように修正。</p> <p style="text-align: center;">表 14 等価荷重振幅による簡易評価(B3 試験体)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">等価荷重振幅 (対応実験)</th> <th style="width: 50%;">繰返し変形状</th> <th style="width: 30%;">相当ランク</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.4τ_d 未満(0.36τ_y 未満) (0.04±0.02 MPa, 0.04±0.04, 0.08±0.04MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8τ_d 未満 (0.72τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの温度上昇はほとんどない。 残留変形は小さく、考慮する必要は低い。</td> <td>ランク a または b</td> </tr> <tr> <td>0.9τ_d 未満(0.81τ_y 未満) (0.12±0.06MPa, 0.08±0.08MPa)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8τ_d 未満 (1.62τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形により積層ゴムの温度上昇が生じ始めるが、ばね 性能変化への影響はほとんどない。 残留変形を考慮する必要がある。</td> <td>ランク b</td> </tr> <tr> <td>1.2τ_d 未満(1.08τ_y 未満)</td> <td>換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 2.4τ_d 未満 (2.16τ_y 未満)に対応。 繰返し変形により振幅増加の可能性はある。 積層ゴムの温度上昇による影響が生じ、ばね性能の低下に伴 う振幅増加の可能性はある。 残留変形を考慮する必要がある。</td> <td>ランク c</td> </tr> <tr> <td>1.2τ_d 以上(1.08τ_y 以上) (0.12±0.12MPa)</td> <td>これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。</td> <td>ランク外</td> </tr> </tbody> </table> <p>※α:風荷重動的成分を等価な一定振幅の正弦波に置換する際の換算係数を表す。 ※表中において τ_d は切片応力度(せん断ひずみ 100%時)を、τ_y は降伏応力度(せん断ひずみ 100%時)を表す。</p> <p>【主な修正箇所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標とする特性値については τ_y:降伏応力度に加えて、τ_d:切片応力度を追加。 等価荷重振幅の係数を訂正、ランク c の等価荷重振幅を「未満」の表記に訂正。 対応実験を整理。 繰返し変形状の表現を見直し、他の高減衰積層ゴムの表現と統一。 注記に α の説明、τ_y および τ_d の説明を追加。 	等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形状	相当ランク	0.4 τ_d 未満(0.36 τ_y 未満) (0.04±0.02 MPa, 0.04±0.04, 0.08±0.04MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8 τ_d 未満 (0.72 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの温度上昇はほとんどない。 残留変形は小さく、考慮する必要は低い。	ランク a または b	0.9 τ_d 未満(0.81 τ_y 未満) (0.12±0.06MPa, 0.08±0.08MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_d 未満 (1.62 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形により積層ゴムの温度上昇が生じ始めるが、ばね 性能変化への影響はほとんどない。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク b	1.2 τ_d 未満(1.08 τ_y 未満)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 2.4 τ_d 未満 (2.16 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形により振幅増加の可能性はある。 積層ゴムの温度上昇による影響が生じ、ばね性能の低下に伴 う振幅増加の可能性はある。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク c	1.2 τ_d 以上(1.08 τ_y 以上) (0.12±0.12MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外
等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形状	ランク																														
0.33 τ_y 未満 (0.04±0.02 MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの変化は小さい。	ランク a または b																														
0.8 τ_y 未満 (0.04±0.04, 0.08±0.04MPa 0.12±0.06MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_y 未満に対応。 繰返し変形による加振振幅の増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴム温度の上昇は4℃以下。	ランク b																														
0.8 τ_y 以上 (0.08±0.08MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.6 τ_y 以上に 対応。 繰返し変形による加振振幅の増加は1.06 倍程度。 繰返し変形による積層ゴム温度の変化は6℃以下。	ランク c																														
1.1 τ_y 以上 (0.12±0.12MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による加振振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外																														
等価荷重振幅 (対応実験)	繰返し変形状	相当ランク																														
0.4 τ_d 未満(0.36 τ_y 未満) (0.04±0.02 MPa, 0.04±0.04, 0.08±0.04MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 0.8 τ_d 未満 (0.72 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形による積層ゴムの温度上昇はほとんどない。 残留変形は小さく、考慮する必要は低い。	ランク a または b																														
0.9 τ_d 未満(0.81 τ_y 未満) (0.12±0.06MPa, 0.08±0.08MPa)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 1.8 τ_d 未満 (1.62 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形による振幅増加はほとんどない。 繰返し変形により積層ゴムの温度上昇が生じ始めるが、ばね 性能変化への影響はほとんどない。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク b																														
1.2 τ_d 未満(1.08 τ_y 未満)	換算係数 $\alpha^*=0.5$ を考慮すると動的成分荷重最大値 2.4 τ_d 未満 (2.16 τ_y 未満)に対応。 繰返し変形により振幅増加の可能性はある。 積層ゴムの温度上昇による影響が生じ、ばね性能の低下に伴 う振幅増加の可能性はある。 残留変形を考慮する必要がある。	ランク c																														
1.2 τ_d 以上(1.08 τ_y 以上) (0.12±0.12MPa)	これ以上の条件では使用しない。 繰返し変形による温度上昇が著しい。 繰返し変形による振幅増大が著しく不安定な挙動を示す。	ランク外																														